



## レビー小体型認知症サポートネットワーク福岡 第9回研修会・交流会



寒さ厳しい2017年12月14日(木) BiVi 福岡 で、協力医 合馬慎二先生の司会のもと、DLBSN 福岡の第9回研修会・交流会を開催しました。29名の参加があり、このうち、ご本人が2名、初参加の方が14名でした。

### 講義「レビー小体型認知症について」

顧問医である坪井先生から、主に運動症状についてお話しがありました。レビー小体型認知症の運動症状は、日常生活動作(ADL)低下の最大のリスクと言われています。できるだけ、早期から予防することが大切です。そのために、まず運動障害の理解を深め、機能低下を予防し転倒リスクを減らすこと、薬物・運動療法を取り入れ進行の軽減を図ることが必要です。将来、どのように進行するかを予想できる知識を持ち、それを踏まえた関わりや生活環境の整備が大切だとお話しされました。

### グループワーク

今回は2つのグループに分かれ、それぞれに顧問医の坪井先生、協力医の合馬先生が入られてディスカッションを行いました。膝を突き合わせた形式で、より身近でディスカッションを行うことができました。参加者の方からも、とても有意義だったという言葉が聞かれました。多くのお話しやアドバイスが行われたので、その一部をご紹介します。

- 症状の変動にどのように対応してよいか葛藤がある。
  - 公的サービスを上手に利用し、介護者自身の健康を保つことが大事である。
- 症状が悪化したために入院せざるを得ず、それで良かったのだろうか悩んでいる。
  - ご本人の命の安全を最優先し、今後、どのように在宅で生活できるか考えていくことが必要である。例えば、家の中の暗がりや、明るく照らすといった方法を検討してはどうか。
- 嚥下障害がある。

→肺炎予防としての口腔ケアが大切である。

・不安が強い場合への対応

→症状を良く観察して、その人に合った対応を考えていくことが必要である。

最後に、下村代表から、11月の全国交流会でレビー小体型認知症のご本人から伺ったお話しを紹介されました。『幻視はとっても怖いです。それに対して、軽々しく大丈夫って言って欲しくありません。見下されたみたいでイラッとします。手を握って「大丈夫」って声をかけてください。背中をさすって「ここにいるよ」って言ってください。』

ご本人の言葉は、ケアする立場の私たちの心に、何よりも届くのではないのでしょうか。

次回の研修会・交流会は、2017年3月8日(木)18時～です。今回は、第10回を記念して、レビー小体型認知症サポートネットワーク東京の長澤かほる代表の特別講演「レビー小体型認知症サポートネットワーク未来への展望」を行って頂きます。



報告者：DLBSN 福岡 副代表坂梨左織